

農林水産大臣賞

乾燥材、集成材、EW等高規格製品の安定供給システムの確立  
—スギ中目材を活用し、地域経済に貢献する—

宮崎ウッドテクノ（代表者 間瀬 英男）

□事業体の構成  
津別単板協同組合

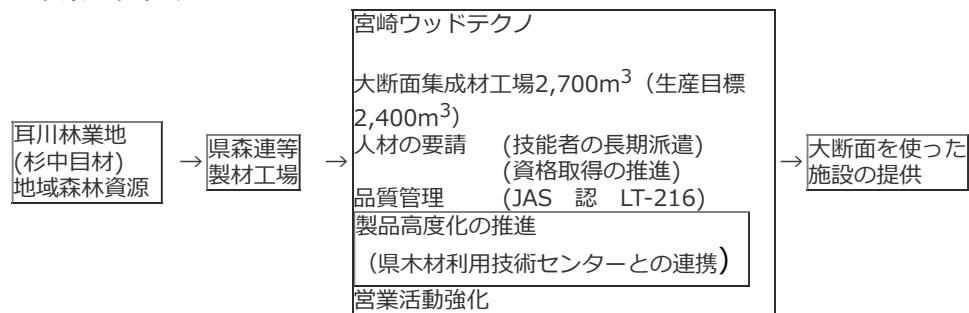
市町村8、組合2、企業3

〒883-0109

宮崎県東臼杵郡東郷町大字山陰字桑木田914-1  
電話0982-69-3569 FAX0982-69-3384



□事業の仕組み



□事業の実績（目的、事業内容の概要等）

宮崎ウッドテクノ(株)は、戦後植林された耳川流域のスギ中目材を使って、集成材として高付加価値をつけ、需要者のニーズに応えた高品質の管理された製品を提供し、もって地域林業、林産業に貢献する目的で、平成9年11月設立、同10年度に社屋、工場の建設を行い、同11年度から操業を開始した。

以後4年目を迎えたのであるが、営業実績も年々倍増し、本年度（14年9月末）の売上高は約10億円と躍進し、平成13年度から黒字決算が出来るようになった。

又、当会社が手かけた主な建築物としては、校舎、体育館、プロ野球キャンプに於ける室内雨天練習場3棟（サンドーム日向、日南おびスギドーム、南郷くろしおドーム）その他公共施設及び民間住宅等実績がある。現在、東洋一の木橋（L=140.0m、W=7.0m）を製作仮組中である。これからの躍進が期待される。

宮崎ウッドテクノ(株)の地域材利用への貢献（平成13年度）

## 1. 前提条件

立木の歩留まり	73%
製材歩留まり	65%
集成材歩留まり	64%

## 2. 製材品の必要量（集成材・製材品）

$$2,092\text{m}^3 \text{ (13年度生産実績)} \div 64\% \approx 3,300\text{m}^3$$

## 3. 原木の必要量（製材品・原木）

$$3,268\text{m}^3 \div 65\% \approx 5,000\text{m}^3$$

## 4. 立木の必要量（原木・立木）

$$5,027\text{m}^3 \div 73\% \approx 6,900\text{m}^3$$

### 1. 必要な立木確保をhaに換算すると（耳川流域のスギ40年生の場合）

$$6,886\text{m}^3 \div 412\text{m}^3/\text{ha} \approx 17\text{ha}$$

### 2. 必要な立木本数に換算すると（耳川流域のスギ40年生の場合）

$$6,886\text{m}^3 \div 412\text{m}^3/\text{ha} \times 774\text{本}/\text{ha} \approx 13,000\text{本}$$

### □現地調査結果の概要

調査担当 委員 玉川佐久良  
(全日本木材市場連盟 専務理事)  
事務局 坂本 保  
(日本木材総合情報センター)

## 1. 設立の経緯

- ① 宮崎県は、昭和30年代から全国に先駆けて 拡大造林に取り組んだ、その中心的役割を果たしたのが、県北の耳川林業地域である。当地域は総森林面積147,061haのうち民有林が90%（131,995ba）を占め、県内でも最も林業生産活動が活発な地域であり、林道等の生産基盤の整備の成果もあって、流域内素材生産量は408千 $\text{m}^3$ （平成12年）で県全体の35%を占めている。
- ② 昭和50年代に入り、スギを中心とした森林資源が着実に育ってきたことから、51年5月に耳川林業振興協議会を設立して、その活用促進のため流域内8市町村、森林組合等が一体となって木材加工団地（32.9ha）の建設に取り組んでいる。
- ③ 第1段階として、昭和62年に国内最大級の国産材製材工場を、平成4年に原木市場を建設した。
- ④ 第2段階として、スギを中心とした森林資源の充実に伴い、流域内の原木が小径木から中目材へと移行し、中目材の需要拡大が課題となってきたことから、製材加工に加え高次加工についての検討を進めた結果、スギ材についても集成材のラミナとして充分強度を確保できることから、スギ中目材の有効活用と施設整備により大型木造施設や公共施設の木造化の促進を目指して、九州では2番目となる大断面集成材工場を誘致することとした。
- ⑤ 九州で2番目の大断面集成材工場である宮崎ウッドテクノ(株)は、耳川流域から供給されるスギ材、とりわけ用途開発が急がれるスギ中目材の活用促進を目指して、地域一体型の誘致企業として、平成9年度から建設に着手し、11年度から操業を開始した。  
施設整備は、平成10年度木材流通合理化特別対策事業により行われた。  
総工費 756百万円 うち、国の補助 240百万円、県の補助 72百万円
- ⑥ 当該地域では、現在最終段階として、共同乾燥施設と新製品（双子柱）工場の建設に着手している。

## 流域市町村の関与等

- ① 宮崎ウッドテクノ（大断面集成材工場）は、木材加工団地建設の趣旨に沿って、流域産材利用、地元雇用を中心とした地域一体型の企業として、流域8市町村が総資本の6割を出資し、民間団体、企業による第3セクター方式で整備された。

資本金	6,400万円
流域8市町村各500万円	4,000
愛知木材(株) (愛知県)	1,000
小松産業(株) (日向市)	500
県森林組合連合会	300
出資者等耳川林業事業協同組合	300

齋藤木材工業（株）	200
社員持株会	100

- ② 工場用地（3.5ha）は、流域8市町村が所有しており、当セクターに無償で貸与している。
- ③ 役員として市町村から取締役1名（北郷村長）、監査役1名（東郷町長）が経常に参画しているほか、流域林業振興の中心的機関である耳川流域活性化センター（流域市町村で運営）の事務局長も取締役役に就任している。  
なお、代表取締役の間瀬英男氏は、愛知木材(株)の出身である。
- ④ 経営の安定化を図るため、平成12年から流域内8市町村が運転資金として8千万円（各市町村1千万円）を毎年、無利子で融資している。
- ⑤ 誘致企業であり、地元東郷町が3年間の固定資産税を免除している。

## 経営実績

創業開始1年目は試運転に終わったことや、その後の2年間についても技術力や営業力等の問題から、目標（2,000m<sup>3</sup>/年）の1/2以下の実線にとどまったことなどから厳しい経営を強いられた。

しかし、4年目の平成13年度に入って、社員の技術力、営業力も向上してきたことに加え、県内で大型木造施設の建設が相次ぎ、その殆どを受注できたことなどから、ほぼ生産目標

（2,000m<sup>3</sup>/年）を達成した。

この結果、操業以来、初めて単年度決算で黒字に転換、平成14年度に入っても順調に受注、生産が続いており、生産目標の2,000m<sup>3</sup>を大幅に上回る2,700m<sup>3</sup>が見込まれており、年間売上額も10億円を突破する見通しである。また、当期損益においても5,000万円の黒字を計上できる見通しである。（13年度に償却費7,000万円を計上、14年度も同額を予定している。）

（m<sup>3</sup>、千円）

区分	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
製品生産量	—	695	1,071	2,092	2,747
売上高	20,096	278,810	367,419	741,284	962,580
当期損益	△65,901	△81,473	△95,145	19,925	—
累積損益	△81,963	△161,849	△256,994	△237,769	—

※14年度は、12月末現在の実績

## 経営改善への取り組み

- ① 営業活動の強化  
当初、営業担当1名を配置して県内中心の営業を展開していたが、12年度から2名体制とし、県内はもとより、九州各県を視野に積極的な営業を展開しており、国産スギ専門の大断面集成材メーカーとして評価が高まっている。
- ② 人材の養成  
工場技能者や設計技術者を齋藤木材工業(株)等先進企業へ6ヶ月～1年の長期派遣をするなど、人材育成に努めた結果、製品の品質や設計技術の向上が図られ、建設現場での施工管理面での指導力も備わってきた。  
また、社員の資格取得の推進に努めており、現在、1級建築士3名、構造用集成材管理士2名、木材乾燥士3名、木材接着士2名、木材切削士1名が在籍している。
- ③ 品質管理  
JAS認定を11年度に取得するとともに、平成15年にISO9001の導入を目指して品質管理や技術の向上に努めている。

## 地域への貢献等

- ① 工場従業員25名（半数は大卒）のうち、14名が流域内、3名が県内からの雇用となっており、就業機会の乏しい山村地域にあって、雇用の創出と地域経済に大きく貢献している。  
また、正規職員以外にも、大工14名、職工9名が臨時職員として恒常的に雇用されており、これらは全て地元民である。
- ② 平成13年4月にオープンした県木材利用技術センターとの連携のもと、県が強力に推進している公共施設等の木造化、とりわけ地域材（スギ）を使った木造ドームなど大型木造施設の建設に大きく貢献している。
- ③ 原材料（ラミナ）は、県森連製材工場、耳川広域森林組合製材工場及び県内の一般製材工場（2社）から供給されている。他県及び県内の一部においては、地元材の使用を義務付けており、その場合はそれに従う。（ラミナは、6～8週間の天然乾燥により含水率を30%程度に下げ、その後約1週間の人工乾燥により、8～11%程度に下げている。）

## 主な受注物件

年度	物件名（所在）	使用量

		規模 (m <sup>3</sup> ) (m <sup>3</sup> )	
11	おびすぎドーム (日南市)	1,767	159
	東郷町交流施設 (東郷町)	815	65
	宮崎市東地区交流センター (宮崎市)	1,533	72
	ルンビニ保育園 (都城市)	1,012	99
	宮崎県木材利用技術センター (都城市)	3,027	468
12	高鍋町総合交流施設 (高鍋町)	1,730	107
	宮崎南養護学校 (清武町)	483	37
	三郷小学校 (大分県)	1,500	59
	サンドーム日向 (日向市)	4,810	874
13	黒潮ドーム (南郷町)	3,904	615
	日南簡保保養施設 (日南市)	856	63
	荅北町民ホール (熊本県)	993	118
	ふるさと林道木橋 (西米良村)	W=7.0 L=140	1,320
14	体育館、図書館複合施設 (北郷村)	3,000	250
	職業訓練校 (西都市)	1,000	72
	鹿央町統合保育園 (熊本県)	1,600	148
15	県内最大の木造ドーム (宮崎市、県総合運動公園)	—	—
(見込み)	日本一の木造駅舎 (日向市駅)	—	—

## 2. 今後の方向

現在は休日の土曜日を返上し、フル生産をしているが、組織の継続発展のため、九州一円をターゲットに営業力を強化する。